

様々な性的嗜好

3年4組6番 岡本一花

keyword: 「性的嗜好」「セクシュアリティ」「恋愛感情」「自己理解」

1.はじめに

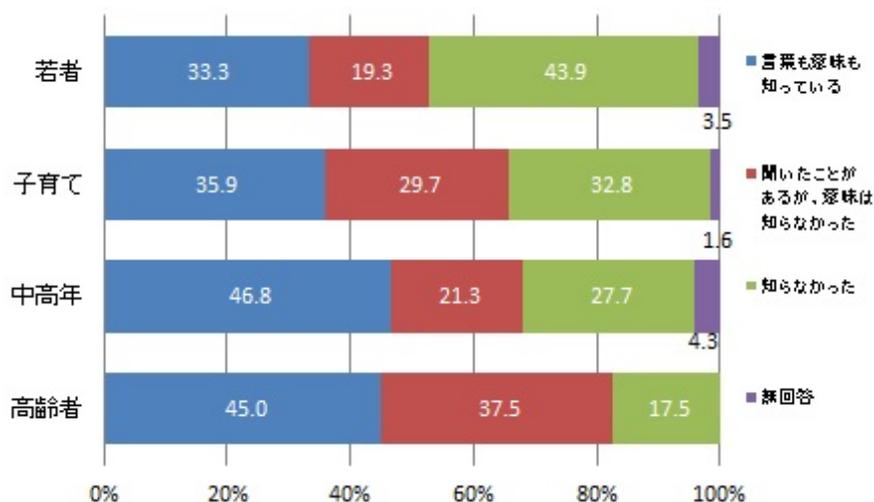
近年、LGBTQはメディアやSNSの中で話題に取り上げられ、社会的認知度が高まっている。しかし、それら以外のセクシュアリティはまだ認知度が高いとはいえない状況である。私は「恋する遊園地」という映画を観たことをきっかけに対物性恋愛というものに興味を持った。対物性恋愛とは生物でないものに対して、性的あるいは恋愛的に惹かれる※セクシュアリティのことである。上記の映画は、遊園地で働く女性が新しく導入されたアトラクションの美しさに魅了され、恋に落ちるという物語だ。この映画を見て、対物性恋愛者へのリアルな反応や対物性恋愛者本人の心情を知ることができた。そこで私は対物性愛という恋愛の形について知名度を高めたいと思い、この探究テーマを設定した。

※セクシュアリティとは広い意味では、人間の性のあり方を意味する。狭い意味では、恋愛や性的な興味の対象がどのような性別に向くかを意味する

2.序論

浜松市(2024年)が実施した「性の多様性について」のアンケート調査によると、「※性的嗜好はご存じでしょうか」という質問に対して「言葉の意味も知っている」という人は39.4%、「聞いたことがあるが、意味は知らなかった」という人は26.4%、「知らなかった」という人は31.7%、「無回答」が2.4%であった。

また、世代別「性的嗜好」の認知度も同様に高いとはいえない状況である。



では、LGBTQ以外のセクシュアリティの認知度を高めるにはどのような方法が一番いいのか。また、海外での認知度はどのくらいなのか。その問題を解決するために、以下のアンケート結果を用いて検証する。

※性的嗜好(せいてきしこう英語:sexual preference) 性的な行動の対象や目的に関する好みの傾向。

3.本論

「対物性恋愛について」のアンケートは82件の回答を得た。調査対象は国際高校3年生だ。「知っている」と答えた人が40.2%、「知らない」と答えた人が59.8%であった。また「知っている」と答えた人に「どこで対物性恋愛を知りましたか？」の結果として、「SNSで知った」と答えた人が9割を超えていた。アンケートを取る前は「知っている」人の割合は30%以下だろうと思っていた。アンケート結果として、「SNSで知った」と答えた人が9割を超えていた為、SNSを有効活用していくことが大切であることが分かる。また「対物性恋愛のことをどう思いますか？」という問いの答えとして目立ったのは、「人それぞれだから良いと思う」や「なぜ好きになるんだろう？」である。「なぜ好きになるんだろう？」の仮説としては物には感情がない為、自分の好きに解釈し会話できるからなのではないかと考えた。そこで私は「[心理学解説] 対物性恋愛に陥る5つの理由と対処法」という記事を見た。対物性恋愛が生まれる心理的理由は以下の5つであった。

1つ目が人間関係の不安や恐れである。過去の人間関係でのつらい経験、他者からの拒絶に対する恐れ、社会的なスキルの不足による自信のなさが主な要因である。これらの要因により、人よりも物との関係に安らぎを見出すことがある。物は裏切らず、常に変わらぬ姿で存在し続けるため、心の安定を得やすいのである。

2つ目がコントロールへの欲求である。予測可能性への渴望、自己決定権の確保不確実、性に対する不安の軽減が主な要因である。物との関係では、自分のペースで接することができ、予期せぬ変化や反応に悩まされることがない。この安定感が、コントロール欲求の強い人々にとって魅力的に映るのである。

3つ目が安心感と安定の追求である。変化に対する不安、一貫性への渴望、心理的な安全地帯の必要性が主な要因である。物は裏切ることなく、常に同じ状態でそこにあり続ける。この不変性が、安定を求める心に強く訴えかけるのである。

4つ目が過去のトラウマや経験である。人間関係への不信感の形成、心の傷を癒す安全な対象の探求、再びの傷つきを避けるための防衛機制が主な要因である。物は過去の経験のような傷つきをもたらすことがないため、心の安全な避難所として機能することがある。

5つ目が社会からの孤立感である。人間関係の希薄化、コミュニケーション機会の減少、所属感の欠如が主な要因である。物との関係は、この孤立感を一時的に和らげる効果がある。物は常にそばにいてくれる存在として、心の隙間を埋める役割を果たすのである。

愛情の対象を人間ではなく物体に向けることで、拒絶や傷つくリスクを避ける心理的な動機が働いている可能性も指摘されている。また対物性愛は一般的な恋愛の概念から外れているため、社会からはしばしば奇異の目で見られがちだ。そのため、対物性愛者が自らの恋愛感情を周囲に公言することに抵抗があるという声も挙げられる。さらに、社会的な誤解や偏見も根強く、対物性愛を精神疾患と捉える声もある。しかし、対物性愛者にとっては対象との関係は非常に大切であり、これを否定されることが※アイデンティティに影響を与えることもある。

対物性恋愛に対する理解を深めるためには多様な恋愛観の存在を認め、異なる価値観を尊重する必要がある。対物性愛に関するさらなる研究が進むことで、対物性愛者が自己理解を深める手助けとなり、社会における孤立や偏見を減らすことが期待される。

※アイデンティティとは一般的に「自分自身の個性」「自分軸」という意味合いで用いられることが多い。

4. 結論

「対物性恋愛」についての研究は、対人恋愛とは異なる視点から愛情や欲求の多様な表現を考える重要な視座を提供する。結論として、対物性恋愛は社会的、心理的に理解する必要があり、それは個人が自身のアイデンティティや満足感を形成する手段として機能していることが分かる。この恋愛形式は、現代社会において人間関係の多様化や孤独感の増大がもたらす影響とも関連し、個人が人や物とどのように感情的につながりを築くかを理解する新たな枠組みを構築する可能性を秘めている。また、対物性恋愛が一部の人にとって安定や幸福感をもたらす一方で、社会的な孤立や他者との関係構築に影響を及ぼす可能性もあるため、包括的な理解と支援のアプローチが求められる。

5. おわりに

本論文では、「対物性恋愛」という現象について多角的な視点から考察を行い、対物性恋愛に至る心理的要因や社会的背景、その特異な関係性が個人にもたらす影響について分析した。本研究を通じて、対物性恋愛の成立には、単に個人の特性や嗜好だけでなく、現代社会における孤独や疎外感、他者との接触が減少する中での自己肯定感の低下などの側面もある事も示唆された。

今後の課題として、対物性恋愛の主体がどのように対象と関係性を築き、どのような要因がこの関係性を強化または変容させるのか、さらなる研究が求められると考える。また、対物性恋愛が社会的な認知や法的な枠組みにどう影響を与えるかについても探究する余地がある。本研究が、対物性恋愛の理解を深め、個人の多様な愛情表現を認められる社会になる事を願っている。

6. 参考文献・出典

- ・「性の多様性について」アンケート結果〔要約〕 <https://00m.in/h9EwO>
- ・【心理学解説】対物性恋愛に陥る5つの理由と対処法 <https://00m.in/AAJCN>
- ・“遊園地のアトラクション”が恋人に……物に性的魅力を感じる「対物性愛」ってなに？ <https://00m.in/BQsYJ>
- ・道路と性交、エッフェル塔と結婚…世界の不思議な“奇病”とは <https://00m.in/bAQNW>
- ・対物性愛は共感覚と関連性が？「浮き輪のおもちゃ・石橋・自由の女神」人外に恋した3人の物語。 <https://00m.in/CqWJo>